

日本ビジネス実務学会・広報委員会
〒158-8580 池田谷区幸町1-6-39/15
産能短期大学内
TEL・FAX(03)-3704-9180

// 特集// 2001年度 ブロック研究会活動報告

北海道ブロック

1. ブロック共同研究

2001年6月より、2001年度JACB研究助成を受け、メンバー9名によって共同研究をスタートし、現在「就職支援プログラム」を作成中である。研究報告、成果物の提出予定は3月、また6月の全国大会において研究成果を発表することになっている。

2. ブロック研究発表

本年度ブロック研究会は、2002年1月9日(水)に「かでる2.7」(道民活動センター)において開催された。今回の参加者は13名、発表・報告は3件で概要は以下のとおりであった。

① 「EMS及びISO14001について」 加藤由紀子氏(スクールEMS研究チーム)

EMSは、PDCAサイクルを使った環境マネジメントシステムであるが、本発表は学生に身近な環境問題をテーマに取り上げ、マネジメントシステムを実感させることを授業に取り入れる必要性を提示した研究である。企業が地球環境に貢献するだけでなく、コスト削減やリスク管理体制の確立を促すことを学習させるものである。

※EMS(Environmental Management System)、ISO(International Organization for Standardization=国際標準化基準)

② 「女性の再学習に対する意識について～北海道在住の女性に対する調査結果を交えて～」 佐々木邦子氏(北海道浅井学

園大学)

わが国の生涯学習における、労働-教育(学習)-労働のサイクルで職業能力向上を目指すリカレント学習(教育)に焦点をあて、北海道の女性の意識調査から、その現状を探究した研究である。調査結果から、再学習の目的が最終学校での知識、技能への補完であることがわかり、その個人の将来の学習に大きな影響を及ぼす大学教育(ビジネス実務教育)の重要性が示された。

③ 「2001年度JACB研究助成『就職支援プログラム作成』中間報告」 和田佳子氏(北海道武蔵女子短期大学)、大塚 映(札幌医療秘書専門学校)、加藤敏捷(札幌国際大学短期大学部)、菊池真一(北海学園北見短期大学)、北崎 寛(札幌国際大学)、芝亜砂美(日本経営協会)、椿 明美(國學院短期大学)、中川昌代(道都大学)

この就職支援プログラムは、自分で考え、自分で表現・行動する就職セミナーと称し、1コマ90分5回分で構成されている。物語、学生体験談、模擬面接などの映像、またプレゼンテーションゲーム手法を取り入れ、学生が興味関心を抱きやすい工夫をした。最終的には、教材、ワークシート、教授用マニュアルをCD-ROMに収める。

(文責 椿 明美)

関東・東北ブロック

ブロック研究会の活動

第29回ブロック研究会は、2002年2月22日(金)に、仙台白百合短期大学の当番校により、東商スカイルームにおいて開催された。参加者はビジターを含め60名。

今年度の学会統一テーマ「地域に根ざすビジネス実務教育」のもと、講演会と共同研究・個人研究の発表、ワークショップ体験など、充実した研究会となった。

まず、当番校である仙台白百合短期大学の植竹由美子実行委員長から、挨拶とスケジュールが説明された。研究会に先立ち総会の席上で、佐藤啓子ブロックリーダーから日本ビジネス実務学会常任理事会での決定事項、ブロック研究会運営委員会での決定事項について報告があった。

研究会では、前半に講演会を行い、講師として多摩大学名誉学長・宮城大学前学長の野田一夫先生をお迎えし「産官学共同のビジネス実務教育」というテーマでご講演をいただいた。豊富な経験からの講演であり、非常に興味深く、示唆に富んだ内

容であった。

午後からは、共同研究および個人研究の発表がなされた。研究発表については次のとおり。

- ① 共同研究『ホスピタリティの実践研究』リーダー：古閑博美(嘉悦大学短期大学部)
- ② 共同研究『ITの進展に伴うワークスタイル多様化の研究』リーダー：堤 幸男(社団法人日本テレワーク協会)
- ③ 共同研究『企業で女性が活躍できる条件-「仮想企業;ときめきウイメンカンパニー」における女性が生き生き活躍できる人事施策と人事制度の研究-』リーダー：芝原脩次(WAKUWAKU ヒューマンカンパニー)
- ④ 個人研究『EmployabilityとHospitalityの共通概念の研究』藤田紀美枝(日本橋学館大学)

さらに、コーヒープレイクをはさんで、渡辺裕一(産能短期大学)、大宮 登(高崎経済大学)のリードのもとに「ワークショップを体験しよう」～学生や市民をまきこむ理論とその試

み〜」のテーマで、参加者がそれぞれ6人のグループに分かれ、ワークショップ体験が行われた。

研究会終了後の懇親会では、参加者相互の情報交換や親睦がはかられ、和やか雰囲気の中すべてのプログラムを終了した。

中部〈東海・北陸〉ブロック

「ブロック運営委員会」の活動

2001年度より運営委員を刷新した。運営委員会を2回、ブロック研究会を1回開催した。またブロックの研究推進事業として共同研究への助成を行い着実な成果をあげている。活動の概略は以下の通りである。

I 第1回運営委員会

<2001年6月9日(土)於・産能短期大学>

1) 議事

- (1) 新旧ブロック運営委員の引き継ぎ
- (2) 2001年度ブロック研究会助成は「大学・短大におけるボランティア教育について」(研究リーダー;加藤洋二郎先生・柴山正先生)とした。
- (3) 2001年度ブロック研究会の開催について
2002年1月6~7日、金城大学(石川県松任市)での開催を確認した。
- (4) その他
 - ① 会計担当について(鎌田和江先生に依頼)
 - ② 2002年度の全国大会(佐賀)について
 - ③ 2003年度の全国大会について
 - ④ ブロック会員の動向について

II 第2回運営委員会

<2002年1月6日(土)於・金城大学>

1) 議事

- (1) 2001年度中部ブロックの活動について(概要の説明)
- (2) 2001年度中部ブロック研究会(金城大学)の開催について
- (3) 運営委員の辞退について
- (4) 2002年度中部ブロック研究会について
2003年1月11日~12日(日)一宮女子短期大学にて開催を内定した。
- (5) 2002年度中部ブロック助成研究について
従来どおり新年度に入り公募することとした。
- (6) 第22回全国大会(2003年度)について
静岡文化芸術大学で開催予定。積極的な参加・発表の呼びかけならびに運営面での協力要請があった。

(7) その他

次回運営委員会を6月の全国大会時に開催することを決定。

(中村健壽・記)

「ブロック研究会」の活動

本年度(2001年度)は、4年ぶりに北陸での開催となり、2002年1月6日(日)、7日(月)の両日、金城大学短期大学部が事務局となり同大学社会福祉学部の校舎において開催された。この時期の北陸の天候や地のりなどから参加者数が心配されたが、会員各位の温かいご協力のおかげで会員32人、ビジター4人、大学生15人の聴講もあり、初日は50人もの参加となった。

研究会は、ブロックリーダー中村健壽先生の開会挨拶に続いて、総会が行われ、学会の動向や運営委員会の活動報告、ブロック研究助成についての報告があり、さらに次回ブロック研究会の会期、場所などの議案が満場一致で承認された。

それぞれの研究発表は、運営委員の先生方が交代で座長となり、たぐみな司会と時間管理の行き届いた進行によって円滑に進展した。

第1日目は、ブロック研究会の助成を受けた共同研究2件の報告が行われた。その後、2日目の午前中までに6件の研究発表があった。研究発表のテーマは、コミュニケーション能力や創造性開発のための実践的教育方法についての分野と、学生起業への取り組みに関する分野に大別され、これからのビジネス実務教育の方向性を提示しているように感じられた。的を射た質疑応答も展開され、大変充実した研究会になったという評価を得た。

また、1日目の夕刻には恒例の懇親会を開催した。開催校の金城学園理事長、同短大学長も臨席し、当地にお越しいただいた方々への歓迎の挨拶に始まり、このときばかりは時間管理も忘れ大変盛り上がり楽しい懇親会となった。

なお、今回は2003年1月11日(土)・12日(日)に一柳達幸先生の一宮女子短期大学を会場として開催される予定である。

終わりに、北陸での開催にあたり寄せられた多くのご支援ご協力を深謝いたします。

(岡野絹枝・記)

近畿ブロック

第33回近畿ブロック研究会

第33回研究会は2001年8月2日(木)23名の参加を得て、ひょうごエコプラザで開催されました。最初に総会が持たれ、活動報告、2000年度決算報告、ブロックリーダーと運営委員の一部交代が報告されました。続いて、ひょうごエコプラザ所長の奥野年秀氏からエコプラザの紹介をいただきました。

今回、福永弘之先生(姫路工大)から『『ISOのこれまで』と『これから』』と題する講演を伺いました。個人研究発表は以下の4名の先生がなされました。

雑賀憲彦先生(大谷女子短大)は「市場主義賃金の功罪について」と題して発表され、続いて林雄太郎先生(大阪キリスト教短大)は「コンピテンシー・マネジメントと今までの人事管理の相違に関する一考察」を、堀正久先生(前四国大学)は「統・

私の選択—学会20年 実業界30年の経験をふまえて—、最後に水原道子先生(大手前女子短大)は「ISO事例報告—キリンビール神戸工場—」と題する研究発表をされました。

第34回近畿ブロック研究会

第34回研究会は2002年3月2日(土)25名の参加者のもと、キャンパスプラザ京都で開催されました。最初に総会が持たれ、新しいブロックリーダーの仁平征次先生(関西国際短大)より、研究大会開催方法の変更(年2回を1回)や研究活動の促進、情報ネットワークの整備、会員名簿の整備について報告を受けました。

今回は研究発表2件、研究報告2件およびワークショップの構成で進められました。研究発表は永尾正章先生(平安女学院大)の「ビジネスインターンシップとビジネス実務教育」、林雄

太郎先生（大阪キリスト教短大）の「クリティカル・ガバナンスの視座からの医療事故低減研究」でした。研究報告は「情報活用と情報発信の基礎—『情報リテラシー教育モデルの創出』による授業展開—」と題して、西原佐智子先生（神戸松蔭女子学院短大）と服部美樹子先生（大阪学院短大）および森田園子先生（大坂樟蔭女子大）の3名の先生が報告されました。続いて福永弘之先生（姫路工大）が2000年度JACB受託研究報告「中堅企業実態調査」の概要を報告されました。

ワークショップは「KJ法体験講座 テーマ：地域に根ざすビジネス実務教育」という形で関西国際大の広澤俊宗先生の指導のもと参加者がグループに分かれ、KJ法の体験をすると共に

に全国大会のテーマを検討・協議しました。

研究大会終了後、第2部として教育懇親会をばるるプラザ京都で開催しました。有意義な懇談をすると共に、長年近畿ブロックの運営に尽力をされました2人の先生、福永弘之先生（姫路工大）と緒方真澄先生（平安女学院短大）に感謝の意味を込めて花束を運営委員よりお贈りしました。

近畿ブロック研究会は今回より年1回の開催となりますが、個人研究発表の時間が多く割かれ且つ十分にいろいろなプログラムが実施可能となり一層充実した研究大会になると期待されています。

中国・四国ブロック

ブロック総会 開催

2001年10月20日（土）山口県下関市（マリンメッセ下関）
議事内容として、「2000年度事業報告」、「会計報告」、「2001年度事業計画」、「2001年度予算」、「理事会報告」がおこなわれ承認された。また、ブロック総会・研究会の次年度の開催地は高松となり、当番校は高松短期大学となった。また、ブロック運営委員として林直樹先生の後任として岡部瑞穂先生の就任が了承された。

ブロック研究会開催

2001年10月20日（土）～21日（日）山口県下関市（マリンメッセ下関）

出席者35名、発表件数14件

本年も、昨年同様1泊2日でのブロック研究会が山口県下関市（マリンメッセ下関）で初めて開催された。この時期公務との重なりがあり出席者は昨年より減ったが、発表は14件もあり、また興味深い教育方法の研究、最近の諸問題など、内容も多岐にわたり出席者からは好評を得た。特に継続研究の発表も増え今後まとまった研究にも期待がもてる。今後は産業界との共同研究や地域に根ざした研究にも期待したい。

なお、懇親会での「ふく」料理に参加者は大満足でした。

ブロック運営委員会開催

ブロック運営委員会は、2001年6月9日（土）東京都（産能短期大学）、2001年10月21日（日）山口県下関市（マリンメッセ下関）、2002年1月26日（土）香川県高松市（高松短期大学）の合計3回行った。

企画運営として、来年度のブロック研究会の開催に関する、開催時期、経費を節約した案内方法の検討をおこない、8月31日～9月1日とした。また、会員数の拡大のための方策を検討する。官・民・NPOなどへの積極的な働きかけ、共同研究、イベント企画を模索する。会報の内容、構成等を再検討、次年度以降のブロック運営費を確保する（2003年には20回記念行事を実施予定）ための方策、2002年全国大会テーマ「地域に根ざすビジネス実務教育」とブロックでの研究をどのように関連づけるか検討をおこなった。

研究推進運営としては、ブロック共同研究の募集、応募方法、選考方法等を検討し、官・民・NPOなどとの共同研究の可能性を模索している。

広報・情報運営においては、会員相互のネットワークづくりのために、低廉で使い易いシステムの構築、ホームページの内容の充実などの検討をおこなった。

九州・沖縄ブロック

1. ブロックの運営動向

2001年度の九州・沖縄ブロック研究会は、2002年度全国大会の当番校である佐賀女子短期大学および福岡市民会館において例年どおり二回開催された。概略は下記のとおりである。

研究会当日開催の運営委員会において、2000年度の活動の報告、2002年度の研究会の二回開催、会報の発行等の決定を行った。

運営委員会での決定を受け、研究会会場にて運営委員会の報告、2002年度の研究会開催回数、時期、会報の内容などの議案が承認された。

2002年度全国大会は、九州・沖縄ブロックが担当であるので当番校のある佐賀市において運営委員を中心とした委員会を開催した。

2. 研究会活動

—第30回研究会—

期日：2001年10月13日（土）

場所：佐賀女子短期大学（佐賀市）

出席者：11名

研究発表

「沖縄県の最先端ビジネスの現状と課題から地域に根ざすビジ

ネス実務教育を考える一事例研究」

発表者：大城智美（沖縄女性研究者の会）

座長：白川美知子（中九州短期大学）

「企業経営における未来学 その3—WTO・緊急輸入制限・中小零細企業を中心として」

発表者：北原康司（佐賀女子短期大学）

座長：光岡延幸（福岡女子短期大学）

「学生の働き方意識—ジェンダーの視点から」

発表者：花崎正子（東筑紫短期大学）

座長：中村美代子（長崎純心大学短期大学部）

—第31回研究会—

期日：2002年2月16日（土）

場所：福岡市民会館（福岡市）

出席者：21名

研究発表

「共同作業を通じたプレゼンテーション演習の情報教育効果」

発表者：木原すみ子（九州龍谷短期大学）

座長：白川美知子（中九州短期大学）

「大学祭における模擬店の経営モデルによる経営計画演習」

発表者：國分孝志（日本文理大学）

座長：杉原英夫（九州共立大学）

「旅行業界における現状と今後の展望」

発表者：坂口英治（町おこし研究所）

座長：大霜 洋（九州スタッフ株式会社）

「ビジネスに必要な能力の開発と余暇活動」

発表者：中村美代子（長崎純心大学短期大学部）

座長：花崎正子（東筑紫短期大学）

上記の研究発表論題にみられるように発表内容が、企業の実態調査、教育現場の課題等に基づいた大学教育、ITを使用した

教育、経営モデル、さらにビジネスに必要な能力の開発等多方面にわたり、充実した研究会となった。

研究会終了後、会場を移動し花崎正子先生の司会・進行により恒例の懇親会が催された。参加者の近況報告、教育・研究についての情報交換等々、参加者相互の親睦を深め盛会のうちに無事全てのプログラムを終了した。

（坂本一登記）

研究発表一覧

今年度より、趣意書に掲載されている研究区分によりまとめてあります。

【1】 ビジネス実務現象の研究

1) ビジネス環境と実務

- ・沖縄県の最先端ビジネスの現状と課題から地域に根ざすビジネス実務教育を考える一事例研究
大城 智美（沖縄女性研究者の会）
- ・EMS 及び ISO14001 について
加藤由紀子（スクール EMS 研究チーム）
- ・企業経営における未来学 その 3-WTO・緊急輸入制限・中小零細企業を中心として
北原 康司（佐賀女子短期大学）
- ・市場主義賃金の功罪について
雑賀 憲彦（大谷女子短期大学）
- ・旅行業界における現状と今後の展望
坂口 英治（町おこし研究所）
- ・免許・資格についての一考察
曾根 康仁（瀬戸内短期大学）
- ・求職者能力開発における WBT 導入の課題
中川 洋子（聖カタリナ女子短期大学）
- ・クリティカル・ガバナンスの視座からの医療事故低減研究
林 雄太郎（大阪キリスト教短期大学）
- ・コンピテンシー・マネジメントと今までの人事管理の相違に関する一考察
林 雄太郎（大阪キリスト教短期大学）
- ・組織内コミュニケーションの問題をさぐる
水口美知子（市邨学園短期大学）
- ・ISO 事例報告ーキリンビール神戸工場ー
水原 道子（大手前女子短期大学）

2) 時代を切り拓くビジネス実務

- ・短大におけるボランティア教育について
加藤洋二郎（中京大学大学院）
柴山 正（名古屋女子大学短期大学部）
清水たま子（愛知江南短期大学）
岡野 絹枝（金城大学短期大学部）
川口 直子（名古屋女子文化短期大学）
一柳 達幸（一宮女子短期大学）
- ・デジタルデバイドの解消に向けて
川端 淑子（山陽学園短期大学）
- ・中心市街地活性化への取り組みと学生起業会社の設立と運営
北潟 克輔（金沢経済大学）
- ・社会福祉法人の経営動向（2）ー社会福祉法人の

意識調査ー

- 須藤 芳正（川崎医療福祉大学）
- 荒谷眞由美（川崎医療福祉大学）
- 田中 伸代（川崎医療福祉大学）
- ・学生の働き方意識ージェンダーの視点から
花崎 正子（東筑紫短期大学）
- ・企業の社会的責任
樋口 紀子（梅光学院大学女子短期大学部）
- ・NPO におけるベンチャービジネス支援ー四国の地域経済活性化ー
山本 慶子（香川短期大学）

3) 個人とチームの実務能力の開発

- ・女性の再学習に対する意識についてー北海道在住の女性に対する調査結果を交えてー
佐々木邦子（北海道浅井学園大学）
- ・続・私の選択ー学会 20 年実業界 30 年の経験をふまえて
堀 正久（前四国大学）

【2】 ビジネス実務教育

1) ビジネス実務能力開発の教育研究

- ・ビジネスワーカーに必要な社会的スキルとビジネス教育における指導について
岡野 絹枝（金城大学短期大学部）
- ・現代人の敬語認識について PART II
小森 敬子（作陽短期大学）
- ・ケースメソッドを利用したコミュニケーションスキルの教育方法の研究
戸田 昭直（浜松短期大学）
中村 健壽（静岡文化芸術大学）
織田 善幌（秋草短期大学）
岡野 絹枝（金城大学短期大学部）
河村 眞澄（岡崎女子短期大学）
賀永マキ子（名古屋聖霊短期大学）
権田 恵子（名古屋経営短期大学）
笹瀬佐代子（浜松短期大学）
杉本百合香（一宮女子短期大学）
原川かず江（実践経営研究所）
平田 祐子（近畿大学短期大学部）
水口美知子（市邨学園短期大学）
吉田由紀子（名古屋聖霊短期大学）
- ・オランダのビジネス実務教育が本邦のビジネス実教育

- が本邦のビジネス実務教育に与える示唆
 中川 伸子 (岩国短期大学)
 中原功一朗 (関東学院大学)
- ・ビジネスに必要な能力の開発と余暇活動
 中村美代子 (長崎純心大学短期大学部)
 - ・企業が求める実務能力—短大と大学との比較—
 久次 弘子 (広島国際大学)
 - ・プレゼンテーションの事例研究による一考察
 平田 祐子 (近畿大学短期大学部)
 - ・Employability と Hospitality の共通概念の研究
 藤田紀美枝 (日本橋学館大学)
 - ・カウンセリングの技法を援用したビジネス実務教育の研究
 森田由美子 (広島中央女子短期大学)

2) 教授法の研究

- ・ホスピタリティ論と授業展開 (その2)
 磯田 圭子 (安田女子短期大学)
- ・「英語科秘書コース」から「ビジネス実務科」への改組
 浦川 幸弘 (岩国短期大学)

- ・創造性開発のためのプログラムの実践と効果
 川口 直子 (名古屋女子文化短期大学)
- ・問題解決能力向上のための試み—起業演習から—
 清水たま子 (愛知江南短期大学)
- ・共同作業を通じたプレゼンテーション演習の情報教育効果
 木原すみ子 (九州龍谷短期大学)
- ・大学祭における模擬店の経営モデルによる経営計画演習
 國分 孝志 (日本文理大学)
- ・ビジネス・インターンシップとビジネス実務教育
 永尾 正章 (平安女学院大学)
- ・情報活用と情報発信の基礎—「情報リテラシー教育モデルの創出」による授業展開
 西原佐智子 (神戸松蔭女子学院短期大学)
 服部美樹子 (大阪学院短期大学)
 森田 園子 (大坂樟蔭女子大学)
- ・新卒者雇用の変化へのIT教育の実践
 原 和陽 (作陽短期大学)
- ・本学秘書科におけるインターンシップについて
 渡辺 和枝 (松山東雲短期大学)

2001年度ブロックリーダー・サブリーダーおよび運営委員

◎ (リーダー)、○ (サブリーダー)

【北海道】

- ◎ 中川 昌代 (道都大学)
- 椿 明美 (國學院短期大学)
 丹治 和典 (札幌国際大学)
 和田 佳子 (北海道武蔵女子短期大学)

【関東・東北】

- ◎ 佐藤 啓子 (常磐短期大学)
- 池内 健治 (産能短期大学)
- 武田 秀子 (高崎商科大学短期大学部)
 天野 恒男 (東京家政学院大学)
 井上良之助
 植竹由美子 (仙台白百合短期大学)
 大島 武 (東京工芸大学女子短期大学部)
 風戸 修子 (産能短期大学)
 古閑 博美 (嘉悦女子短期大学)
 佐藤東九男
 佐藤美津子 (湘南国際女子短期大学)
 芝原 脩次 (WAKUWAKU ヒューマンカンパニー)
 高井由喜雄 ((財)実務技能検定協会)
 田寺 典江 (常磐短期大学)
 畠田 幸恵 (湘南短期大学)
 三村 善美 (東洋女子短期大学)
 山口 憲二 (新島学園女子短期大学)

【中部】

- ◎ 中村 健壽 (静岡文化芸術大学)
- 佐々木 怜子 (愛知学泉短期大学)
- 北潟 克輔 (金沢経済大学)

- 吉田 寛治 (金沢学院大学)
- 柴山 正 (名古屋女子大学短期大学部)
- 一柳 達幸 (一宮女子短期大学)
- 岡野 絹枝 (金城大学短期大学部)
- 鎌田 和江 (名古屋女子短期大学)
- 川口 直子 (名古屋女子文化短期大学)
- 権田 恵子 (名古屋経営短期大学)
- 戸田 昭直 (浜松短期大学)
- 福岡 欣治 (静岡文化芸術大学)
- 真弓 徳光 (高田短期大学)

【近畿】

- ◎ 仁平 征次 (関西国際大学)
- 林 雄太郎 (大阪キリスト教短期大学)
- 石田 絃子 (京都学園大学)
 有働 寿恵 (梅花短期大学)
 足塚 智志 (大阪樟蔭女子大学)
 笠原多恵子 (京都創生大学)
 河原 和英 (大阪樟蔭女子大学)
 杉田 乾伍 (姫路日ノ本短期大学)
 森田 園子 (大阪樟蔭女子大学)
 油谷 純子 (大阪国際大学短期大学部)

【中国・四国】

- ◎ 佃 昌道 (高松短期大学)
- 篠原 收 (広島女学院大学)
- 垣見 益子 (中国短期大学)
- 西川三恵子 (土佐女子短期大学)
- 桐木 陽子 (松山東雲短期大学)
- 樋口 紀子 (梅光女学院大学短期大学部)
- 今林 宏典 (呉大学短期大学部)
- 吉田 行宏 (安田女子短期大学)

岡部 瑞穂 (岡山短期大学)

白川美知子 (中九州短期大学)

杉原 英夫 (九州共立大学)

【九州・沖縄】

井上 善海 (九州情報大学)

◎坂本 一登 (福岡女子短期大学)

木原すみ子 (九州龍谷短期大学)

○光岡 延幸 (福岡女子短期大学)

中村美代子 (長崎純心大学短期大学部)

○花崎 正子 (東筑紫短期大学)

2001年度新入会員 (2000年9月7日～2001年8月24日)

秋岡 定志 (中九州短期大学)

串田 敏美 (北陸ビジネス福祉専門学
校)

野村ひとみ (社員研修、接遇マナー野
村 OFFICE)

浅尾 晃 (岩国短期大学)

桜木 孝司 (高千穂商科大学大学院)

原 和陽 (作陽短期大学)

石川 隆行 (一宮女子短期大学)

佐藤 資治 (福島学院短期大学)

東野 國子 (四條学園短期大学)

伊藤 敏哉 (学校法人森谷学園 トラベ
ルジャーナル旅行専門学校)

沢田 隆 (札幌国際大学短期大学部)

平井 修成 (常葉学園短期大学)

伊藤 由紀 (梅光学院大学)

眞保 智子 (高崎健康福祉大学短期大
学部)

平井 ゆき子 (平井ゆき子事務所)

稲置 慎也 (学校法人稲置学園)

菅瀬 君子 (愛知学泉短期大学)

福井 愛美 (聖和大学短期大学部)

稲葉 公一 (大阪千代田短期大学)

園田 幸治 (比治山大学短期大学部)

藤原 由美 (産能短期大学)

牛島 倫子 (鶴見大学短期大学部)

高木 敏正 (学校法人常葉学園)

松本 定 (鎌倉女子大学短期大学部)

内田恵里子 (昂学園総合専門学校)

武井 昭也 (札幌国際大学短期大学部)

水野 豊義 (一宮女子短期大学)

小川 一美 (名古屋大学教育発達科学
研究所)

立花 知香 (ヒューマンタッチ株式会
社)

宮本トシコ (長岡大学)

小武内 弘 (都立隅田川高等学校)

中條 尚子 (東京経済大学)

山邑 陽一 (日本文理大学)

梶山 亮子 (金城大学短期大学部)

寺本 明子 (川村学園)

吉田 美穂子 (梅花短期大学)

梶山 尚子 (大原情報ビジネス専門学
校静岡校)

豊田 雄彦 (産能短期大学)

再入会

加藤 真一 (金城大学)

永尾 正章 (平安女学院大学)

野坂 純子 (大手前女子短期大学)

金岡 敬子 (広島修道大学)

西谷勢至子 (慶応義塾大学商学研究科)

次回のセミナー開催のお知らせ

プレゼンテーション教育指導法セミナー

8月8日(木)～9日(金) 関東・産能短期大学にて開催

9月5日(木)～6日(金) 関西・梅花短期大学にて開催

就職活動支援教育指導法セミナー

9月3日(火) 関東・産能短期大学にて開催

詳しい内容等につきましては、別紙リーフレットをご参照ください。

学会報 35号に関する訂正とお詫び

2001年10月発行の学会報 35号に誤りがございました。

製作者による、年校後のミスであったため、事務局では確認が出来ないまま、発行となりました。関係者ならびに
会員のみならず、ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げますとともに、以下に訂正いたします。

・11頁右上、発行番号 No.34 (誤) → No.35 (正)

・11頁、分野別シンポジウムの写真、大崎葉月氏と正木三奈氏の写真が反対